

大いなるものに生かされている私

能岡 浄

法話3

緑の星（惑星）・地球号

宇宙飛行士の『毛利衛さん』が宇宙から帰ったとき、「青く美しい地球には、きれいな水と空気がある。宇宙へ行つたら太陽が無く真っ暗闇、水も重力も無い。宇宙船から外へ出ると『地獄』です。地球に帰ると『生きておきました。ありがとうございました』を痛感した」と言わされました。地球の恩恵の届かない所へ行つてきて、いつぺんに『悟りが開けた』ということなのでしょう。

臨濟宗の禅僧の第一人者だった『山田無文さん』は、若いとき肺結核になり、余命いくばくも無いという夏のある日、縁側に出て涼んでいると一陣の風が吹いて来て、その時「大いなるものに生かされあること、今朝吹く風の涼しさに知る」と。最先端科学の宇宙飛行士と、禅僧の言葉とが一致するのです。『真の悟り』とは、特殊な宗教じみたものではなく、むしろ『仏教は、自然科学に最も近いもの』と言えましょう。

人間の生活環境が整うのに、46億年もかかつた

宙が誕生し、46億年前、その中に地球が生まれました。この気が遠くな るような、非常に長い期間はピンと来ませんので、46億年を1年（12カ 月）間に換算して考えてみましょう。

1月1日の午前0時00分に生まれたばかりの地球は、至る所で火山が爆発し、溶岩の火の海に覆われていました。しかし火山活動が静まるとき跡的に雨が降り、地球は冷えて行きました。そして、雨水で水たまりが大きくなつて真水の海ができ、さらに、雨水により陸地が削られて、しだいに塩分の多い海水となつて行つたのです。

4月1日ごろ、地球が生まれてから約11億年後、今から約35億年に、やつと生き物（細菌類）が原始の海に現されました。海水中に酸素を出す藻類などの出現は、5月1日ごろです。酸素を出す藻類が繁殖し、海水中に充満した酸素は、少しづつ大気中へ出て行き、大気中の酸素量が増えて行きました。10月10日ごろ、海の浅瀬に緑色（光合成）植物が現れて、さらに酸素量が多くなつて行つたのです。

11月15日ごろ、脊椎動物の魚類が現れました。そして両生類（カエルなど）の出現は、11月30日～12月1日です。

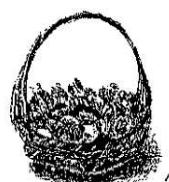
12月2日ごろから、大気中の酸素量が現在の空气中とほぼ同じ20パーセント以上となり、地上21～25キロメートル上空に、酸素から生まれたオゾン層が形成されました。太陽から降りそぞぐ有害な紫外線のために、今まで水中でしか生活できなかつた生物は、オゾン層が紫外線を吸収して初めて陸へ上がるようになり、陸地に植物が現れました。

12月25日ごろに、やつと哺乳類が出現しました。猿から進化した猿人の出現は12月31日の16時56分30秒（今から3万年前）ごろです。地球の歴史から

今から一五〇億年前、小さな粒子が大爆発（ビッグバン）を起こして宇

見ると、現代人の歴史は瞬間（まばたきする間）で、我々の生活環境は『46億年もかかつて、やっとできあがった』ということになります。

人体内には、太古の海水がある



46億年の地球の歴史は、母体内的胎児の発育過程で認められます。人間の胎児は羊水の中で育ち、初期の胎児の首に、魚類のエラ穴と同じような裂け目ができるのは、魚類から進化した証拠です。また、私たちの血液や骨格は、太古の海水と同じような成分を含み、現在も海水を人体内に持つて、陸上の生活をしていることになるのです。だから、食塩をとり過ぎたり、カルシウムが少なすぎたりすると、体調を崩すのです。現在までの宇宙探査から、生物の住む星は見つかっていません。無数の生き物が住む地球は『奇跡の星』や『緑の惑星』と呼ばれています。

46億年間もの非常に長い期間が費やされて、私たちが何不自由なく暮らせる環境が作り出された事実を思うとき、私は『正信偈』の中の「五劫思惟之攝取（阿弥陀如来が五劫という、想像もできない非常に長い間、ただ一筋に思案をめぐらせ、工夫をこらして計画され、悪きを捨てて、善を選び取られた）」の一行が頭に浮かびます。

如來大悲の恩徳の中に、生かされて生きている

天地自然は、無数の生き物を（阿弥陀如来の大慈悲により）大切に育て、人間をはじめ、みんな尊い命は生かされて生きているのです。私が気づくが、忘れていようが、そんなことには関係なく、私たちの体、からだ

空気中の酸素、雨水、太陽の光と熱、我々の食べ物を生産する大地や、生活必需品も、すべてが地球からの頂きものです。親鸞聖人が言われた『絶対他力（自分の力はゼロで、如来のお力が百パーセント）』のお陰で、毎日の生活ができるなどを『報恩感謝』すべきだと思います。

『邪見驕慢惡衆生』とは、私のことでした

私を生かし続けるために、自分の体のすべての器官が常に働いていて下さる、この『おはたらき』が阿弥陀仏（如来）なのです。病氣して、初めて健康の有り難さが分かり、空氣や水の有り難さについても我々は忘がちです。私たちは『生かされて生きている』のに、そのことが分からず『自分の力で生きている』つもりです。そのことを知らざすにはおけない、また気づかさずにはおけないという阿弥陀仏の『おはたらき』に、私が気づいて頭が下がった時、『南無（おまかせします）』と『大慈悲』の手に抱かれている私』ということに、初めて目覚めるのです。そして、阿弥陀仏が私の口を借りて『必ず救うぞ』と何時でも・何処にいても、私に呼びかけて下さるお声が『南無阿弥陀仏』なのです。



能岡 浄（よしおか きよし）

一九四三年三月生まれ。現在、大阪府立看護大学
医療技術短期大学部・臨床栄養学科助教授。

農学博士。大阪教区願成寺住職。

〒599-8241 大阪府堺市福田八〇九